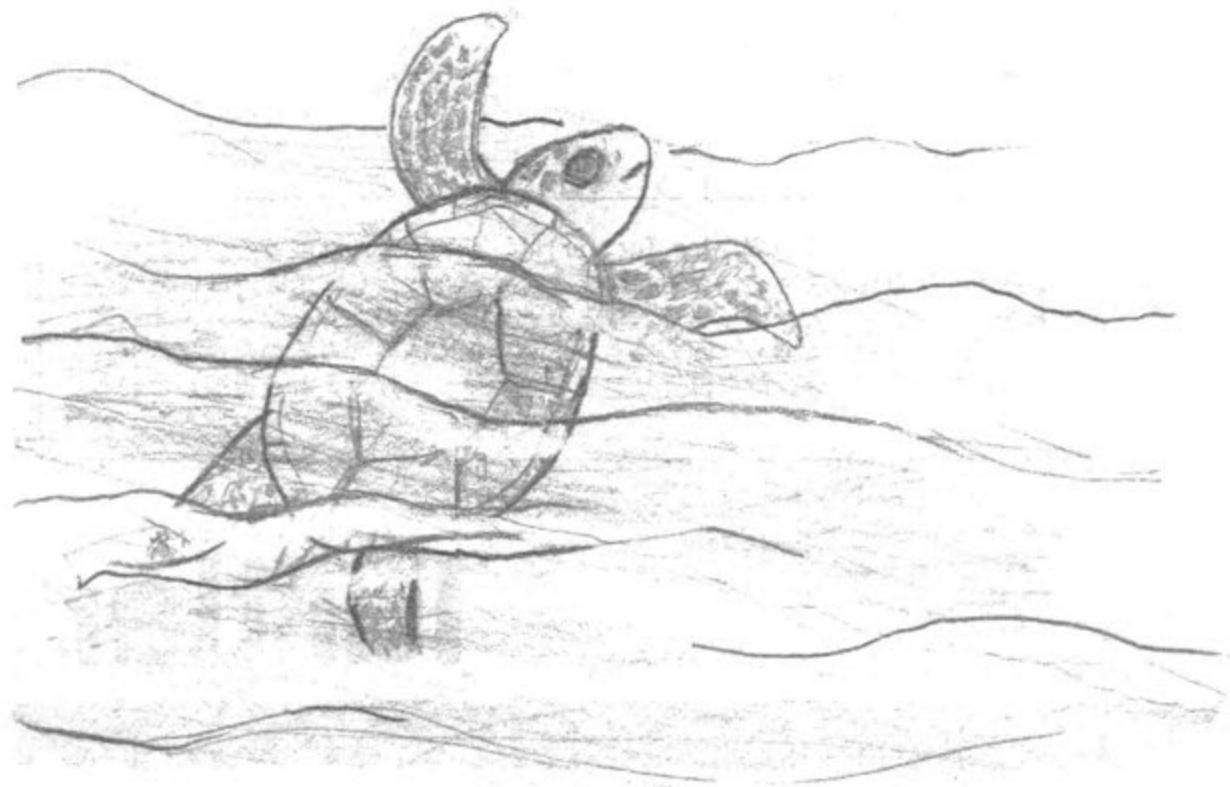
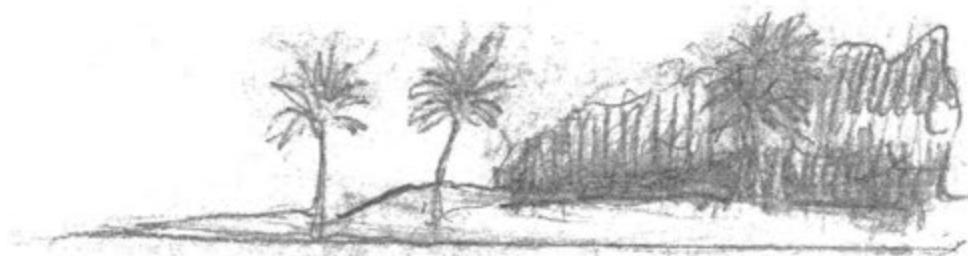


# Marine Turtler

マリンタートル

特定非営利活動法人日本ウミガメ協議会機関誌

第9号



## 表紙の絵



兵庫県にお住まいの会員、真家清二さんの娘さん、真家依子さんが描いて下さいました。真家さんは、昨年9月明石市林崎海岸の子ガメ観察会に参加され、とてもかわいかったです。という感想もいただきました。優しい絵をありがとうございました。

## 表紙の絵を募集しています。

引き続き、皆様から表紙の絵を大募集しています。可愛いイラスト、リアルなウミガメ、ウミガメをモチーフにしたデザイン等々、ウミガメに関するものでしたらどんなもので構いませんので、ウミガメを見る機会のある方や、日頃から深くウミガメに関わりのある方は、是非一度挑戦してみてください。皆様からの素敵な絵をお待ちしております。

- サイズ：B5
- 色：自由。（仕上がりはモノクロになります。）
- 期限：〆切はありませんが、次号の掲載をご希望の方は、11月末までをお願いします。
- 応募方法：大阪事務局に郵送又はメールでお送り下さい。
- 送付先：〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302  
日本ウミガメ協議会 マリントートルー編集部  
※メールの場合は [info@umigame.org](mailto:info@umigame.org) まで  
件名に「マリントートルー表紙」と入れてお送り下さい。

会報の名称マリントートルー(Marine Turtler)は、英和辞書には載っていません。つまり、教育的にはあまり相応しい英語とは言えません。ただし、米国では、最近ウミガメ関係者をこう呼ぶことがあります。ウミガメを守りたい人や、ウミガメを研究したい人、立场上仕事でウミガメに関わるようになった人、ウミガメが好きな人など、ウミガメに関わる全ての人を、我々はマリントートルーと呼ぶことを提唱したいと思います。

○  
○  
○  
**Marine  
Turtler**

# Contents

- マリンタートラー列伝 鉄人編  
「後藤清」 松沢慶将・・・3
- ウミガメ基礎講座 8  
「ウミガメの形」 亀崎直樹・・・5
- ブライアン・ボウエン博士と過ごした一日  
近藤康男・・・6
- ウミガメの民俗 5  
「江戸時代のウミガメ供養1」  
-宮城県七ヶ浜町「亀霊神社」の成立-  
藤井弘章・・・7
- 第17回日本ウミガメ会議のご案内・・・9
- 事務局より・・・11
- 「協議会オリジナルデザインのウミガメクレジットカードができました。」  
「会議記念Tシャツ&てぬぐいデザイン募集」  
「募金箱設置のお願い」  
「グッズ販売店の募集」  
「新商品のご案内」  
「寄付を頂いた方」  
「事務局の主な動き」  
「編集後記」

# マリントートルー列伝～鉄人編～

## 「後藤 清」

## 松沢慶将

これまで、亀崎会長は「マリントートルー列伝」を、私は「ウミガメ基礎講座」を、担当していましたが、両者の負担があまりに違うことは、みなさんご承知のことと思います。方や、当事者達しか知らない思い出話。脚色を加えてウケを狙うのも可能でしょう。しかし、カメの話となればそうはいきません。科学的に虚偽の記述も許されず、それでいて読むに値する内容に仕上げるにはそれなりの勉強と工夫が必要です。会長にそのことを理解させる意味からも、今回は、会長が「基礎講座」を担当し、私が「列伝」を執筆することになりました。先方はまた某かの反則技を繰り出す可能性もありますがそれぞれの記事の出来栄はいかがなおりますでしょうか？皆様の公平なご判断をおねがいします。

\*\*\*\*\*

先日、阪神の金本知憲選手が1000試合連続全イニング出場という大記録を打ち立てました。ケガや故障はもちろん、成績がふるわなければ出場機会を奪われる厳しい世界において、7年以上にもコンスタントに活躍し続けることは並大抵のことではありません。そんな派手なプロ競技とは比べようもないのですが、ウミガメに関わる現場にも多くの苦労があります。ベナントレースに匹敵する長丁場で、しかも休みはなし。周囲の迷惑や奇異の目を他所に、毎朝、ウミガメの上陸産卵痕を探して浜を歩く各地のマリントートルーたちは皆、ある種「変人」として扱われているに違いありません。しかし、痕跡調査だけでなく、個体識別のための夜間調査を20年以上にも渡り継続した人がいたとしたら、それはやはり変人の域を超えて「鉄人」と呼ぶに値するのではないのでしょうか。今回紹介する和歌山県みなべ町の後藤清氏は、まさに、そういう人です。

後藤氏は、国内でも有数の規模と上陸密度を

誇る千里浜で調査を継続されてきた方で、その温厚な人柄、誠実さ、面倒見のよさをもって慕われ、京都大学の大学院生達を受け入れて彼らの研究をサポートし、日本ウミガメ協議会にあっては設立当初から理事をつとめられています。大きな賞をいくつもいただきながら、「実るほど頭の垂れる稲穂かな」をまさに地でいく謙虚さから、その発言には益々重みを増す、名アドバイザー的存在でもあります。しかし、そんな後藤氏をマリントートルーとして最も特徴づけている根本は、氏の人となりに加えて、小学校で校長先生をされていたという経歴にあると私は考えています。

千里浜ではこんな会話が頻繁に交わされます。「後藤先生、こんばんは」「ん、あんた誰や？あ、お～、××の〇〇ちゃんとの娘さんか？いや～、大きゅうなったな。おかあさんは、なにか、元気しとるか？そうか、そうか。」「先生、今日はカメさん見させてもらいに来ましたよろしくお願いします。」「はいはい。」

このような会話は、側で聞いている人たちをも素直な気持ちにさせ、温かく包み込みます。千里浜は積極的な管理をしないのに不思議と秩序が保たれている産卵地ですが、そうしている要因の一つが、このような会話が醸し出す独特の雰囲気であり、それは教育者として長年地元に貢献し、皆に慕われている後藤氏ならではのものです。

それから、氏がウミガメに関わるようになったのも、教師をしていたことによります。かつての教え子で当時中学校の先生であった上村修氏が、1980年に千里浜での調査をはじめたのですが、1985年から海外の学校へ赴任することとなり、留守中の調査をかつての恩師に託していたのがきっかけとなったのです。

また、後藤氏と一緒にいていつも驚かされることの一つに、その驚異的な記憶力があげられ



後藤清氏

ます。砂浜で標識のついたウミガメを発見するとその個体の履歴確認が必要となり、我々は急いで野帳やパソコンで調べるのですが、後藤氏は「なに、プラ8321かい？8321なら、6月×日のポイント4よ。」といった具合に即答してしまうのです。全正解とはいきませんが9割程度はあっています。しかし、それも、元先生だけに、出席簿を管理して記憶するのにも長けているということなのかもしれません。

話を鉄人に戻しましょう。後藤氏は華奢な体つきをしていますが、タフさを兼ね備えています。まず、浜を歩くペースの速いこと。千里浜の砂は粗いために足が取られやすく、他の浜に比べて著しく歩きにくい特徴があります。ここを何往復もするので、大抵の若者は大汗をかいて音をあげてしまいましたが、後藤氏はスタスタと歩き続け、ただ涼しい顔をして「あついあつい」と言うだけです。

次に、頑丈さ（鈍感さ？）です。例えば、つい先日も、ガラスを踏んで踵に破片が入ったままの状態でも調査をしていたことが判明しました。

除去手術の晩も、もちろん普段と変わらず元気に浜を歩いていました。そして、調査を継続する根気と体力です。10年前にいただいた手紙を読み返してみると、「今年は体調が優れず

どれだけ浜にでられるかわかりません。調査も今年が最後かもしれません。」とありますが、今となっては全くなんのことだったのやら。喜寿を迎えて益々元気のご様子。鉄人はなかなか壊れません。そのうえ、ボケ防止対策と称してはじめたパソコンも完璧に使いこなし、毎年、立派な報告書を作成されます。元同僚の多くは痴呆が進行してしまったとのことですが、後藤氏はボケとは縁もゆかりもないのでしょうか。昨年、浜で出会った人とこんな会話がありました。「昔、毎日この浜にやってきてウミガメを熱心に調べていた先生がいたけれど、少し前に亡くなられてしまてね。」と。暫く話を聞いた後、「それは、わしのことじゃないか？」と後藤氏。生きながらにして、既に伝説になっているとは、もはや鉄人を超えて仙人の域に達しているのかもしれません。

# ウミガメ基礎講座8

## 「ウミガメの形」

亀崎直樹

日本ウミガメ協議会の機関紙の発行が遅れる原因の一つに、松沢主任研究員の原稿がなかなか出ないことがあります。編集を担当している矢野さんは、それが悩みの種でした。そこで、事務所でこんな会話が 있었습니다。

亀崎「こら、松沢。今度ははよ書けよ!!」  
それに対して松沢「亀崎さんはいいですよ。マリンタートル一列伝なんて、昔話をちょこちょこっと書けばいいだけじゃないですか。」

こんなやりとりがあり、ならば今回は亀崎が基礎講座ということになったのでした。

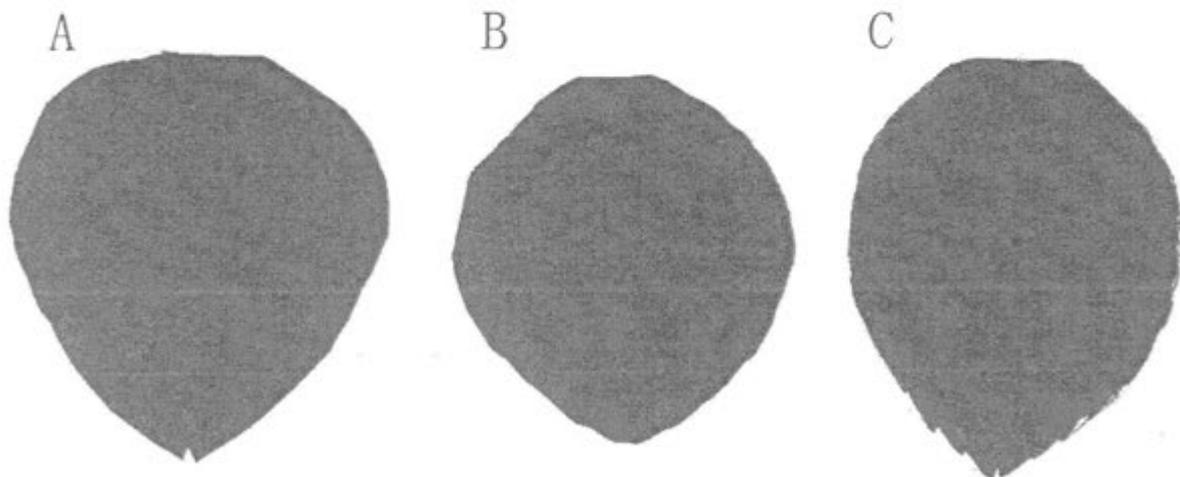
前置きはこれくらいにして、基礎講座を始めましょう。私がウミガメを相手にするようになって、今年で25年がたちました。その間、一貫して興味を持ち続けているのが、ウミガメの形です。生物の形は種によって様々です。しかも、種が同じであればその形はほとんど同じなのです。ただし、例外もあります。ヒトです。ヒトは足が長いヒト、短いヒト、頭が大きいヒト、小さいヒトなど、形に結構ばらつきがあります。イヌやネコも同じです。これらの動物はその形が生死を決めるような重要な要因ではないため、種として様々な形を包含することができます。そのように考えると、野生動物の形は、生死、すなわち種の存続に関する重要な要因であり、進化の過程で自然選択を繰り返し、究極の姿になったのだと予想されます。

3種のウミガメの甲羅の図をみてください。このシルエットで種が分かるようであれば、ウ

ミガメ道初段の実力です。3種ともよく似ていますが、それでも少し違いはあります。Aは甲羅の最大幅は上半分にあります。Bは最大幅はほぼ中間にあります。Cは甲羅の縁がトゲトゲしています。どうして、こんな違いが出来たのでしょうか。あれこれ考えてみましょう。

まず、Aの最大幅が上半分にあるのは上半身が発達しているのではと考えています。上半身には頭も含まれます。頭から上半身が発達しているのは、咬む力や遊泳力が強いことが想像されます。Bの形はそれほどまでに上半身は発達しておらず、しかも下半身の幅が広い印象を受けます。ウミガメの下半身も、ヒトと同じように腸が詰まっています。つまり、Bのカメは腸が長く、何となく草食性を想起させます。Cのカメは最も細長く、なんとなくすばやく泳ぎそうな印象を持ちますが、上半身は発達しておらず前肢の力のなさを補うように、細長くなったとも考えられます。それを支持するのは、甲の縁のトゲトゲです。遊泳力がなくても、このトゲトゲが天敵から身を守るのに使われているかもしれませぬ。さて、ここまで説明すれば、種はわかりますね。Aはアカウミガメ、Bはアオウミガメ、Cはタイマイです。

このように形を眺めてあれこれ考えるのは、実に楽しいのですが、何しろこれを証明するのが難しいのが学問にはちょっと大変なところなのです。



# ブライアン・ボウエン博士と過ごした一日

## 近藤康男

1998年11月、第9回日本ウミガメ会議は、日本で桁外れにウミガメが上陸し、産卵する屋久島で開催された。

初日、金曜日の夜は、地元の方のウミガメに関する歴史的な体験談とはるばるアメリカのフロリダ大学から招待されたブライアン・ボウエン博士の特別講演があった。

第2日目は、全長120km余りの島の海岸巡り(一部の人は縄文杉登山)のツアーであった。

宿舎「つゆのやホテル」での朝、朝食のため食堂へ行って食べかけると、私の隣にボウエン博士が座って食べ始めた。朝食のメニューにはアジの一夜干しの焼き物が付いていた。横から見ていると彼はそのアジの箸さばきに困っている様子であった。挨拶をした後、見るに見かねた私は、そのアジを食べられるように処理してあげた。

何台かの車に分乗して海岸巡りのツアーに出、海岸に降りてその浜のカメの上陸状況などの説明をしてくれたが、どういうわけか、ボウエン博士に世話役がついておらず、彼は手持ち無沙汰でポツンとした存在だった。

お節介とは思ったが客に対して失礼と思い、たどたどしい英語で案内役を買って出た。

昼食時は、自然休養林「屋久島ランド」だった。

見学のあと、休憩所あたりで弁当になった。その時もボウエン博士と共に、外の石に腰をかけて食べた。もらったパンフレットで屋久杉のことについても説明してあげた。

その夜、公民館での催し物を見ながらの食事会も、どういうわけか博士と隣り合わせになりビールや焼酎を飲みながら楽しい一時を共有した。パンダを想像する風格ある博士は、酒もなかなか強かった。

会議が終了して数日後、友人が私とボウエン博士がある浜で並んでいる写真を送ってくれて一枚は博士に届けるようにとの依頼があった。

そこで私は、フロリダのボウエン博士に次のような手紙をつけてその写真と私の「アカウミガメ」の本を送った。

『屋久島では一日間博士と一緒に過ごす機会を得、光栄の至りでした。

実は私は1950年から数年間、四国の徳島、日和佐の大浜海岸で生徒達と共に、アカウミガメの生態について取り組みました。その成果を収めた書物を送ります。明春、日本から貴方のところに、松沢さんが行きますので、松沢さんに内容を説明してもらってください。』

そうすると、博士から折り返し彼の最近の論文数点を入れ、次のような好意と有効に満ち溢れた手紙をくださった。

『屋久島での会議は、私にとって非常に特別な経験でした。会議中の貴方の親切な手助けに心から感謝します。私は貴方の大浜海岸でのパイオニアリング・ワークについて大変興味深く学びました。貴方が日本で行ったウミガメの研究が、世界的に拓がったことを、とても幸福に感じます。私のウミガメの研究は1983年ヴァージニアで始まりました。最初、私は魚の集団遺伝学について研究していました。そして、私のフィアンセのルースがアカウミガメの研究をしていました。私は彼女の関心を得るため、海岸でカメを捕獲するのを手伝っていましたが、まもなく私もウミガメの虜になりました。1987年ジョージア大学ジョン・アバイス博士のもとで博士号をとりました。1994年亀崎博士をはじめ、オーストラリア、メキシコ、U.S.Aなどの熱心な研究者からサンプルを得て、バハ・カリフォルニアのカメが日本から来たことがわかりました。これは私の人生における大きな仕事でした。

ルースと私は1986年に結婚し、現在一人の子ともう一人がお腹の中にいます。私は海岸で彼女の心を射止め、そして現在は私がカメの研究を、ルースが魚の研究をしています。

貴方に差し上げる適当な写真がありませんので、その代わりに私の拙いウミガメの遺伝学についての研究物をお送りします。また、家族を連れて、美しい日本での、日本ウミガメ会議に参加したいものと思っています。』

# ウミガメの民俗5

## 江戸時代のウミガメ供養1

—宮城県七ヶ浜町「亀霊神社」の成立—

藤井弘章

2回にわたって、知多半島のウミガメ供養習俗について紹介してきました。このように、漂着して死んだ個体や、漁師の網にかかって死んだ個体を埋葬して供養する習俗は、青森県から鹿児島県まで分布しています。日本列島のかなり広い範囲で分布していることが分かりますが、時代的にみるとどうなのでしょう。古代や中世のことは資料がないので分かりませんが、江戸時代には確実に行われていたことが分かっています。今回は由来のはっきりしている宮城県七ヶ浜町の「亀霊神社」の例を取り上げてみましょう。

七ヶ浜町は、松島湾と太平洋に突き出した海に囲まれた地域です。このうち、松ヶ浜という太平洋に面した地区にウミガメが祀られてきました。現在も松ヶ浜の鈴木捨五郎さんのお宅には、ウミガメを祀った祠（写真1）と、「ふけつの貝（写真2）」というウミガメが持って来たという珍しい貝が宝物として大切に保管されています。江戸時代に葬られたウミガメの祭祀が今まで続けられているというだけでも驚くべきことですが、ここにはウミガメが祀られるようになった由来を記した記録が2つも残っているので貴重です。ひとつは同地区の旅館御殿場さんに伝わった安政5年（1858）に書かれた「亀

霊神社不死貝由来」（写真3）という古文書に記されています。この文書は、村の肝入をしていた旅館御殿場さんの先祖が、ウミガメを祀った漁師の儀兵衛（鈴木捨五郎さんの先祖）から聞いて書き記したものです。もうひとつは、女流文学者・只野真葛が、文政元（1818）に七ヶ浜を巡ったときの紀行文『磯づたひ』に登場しているのです。真葛は現在の民俗学者のように地元の漁師から聞き取ったことをそのまま記しています。この2つの記録と、鈴木さんの家に伝わった言い伝えとによって、ウミガメがどのようにして祀られるようになったかが分かります。由は次のようなものでした（それぞれに少しずつ違いがありますので、「亀霊神社不死貝由来」を基本として記してみます）。

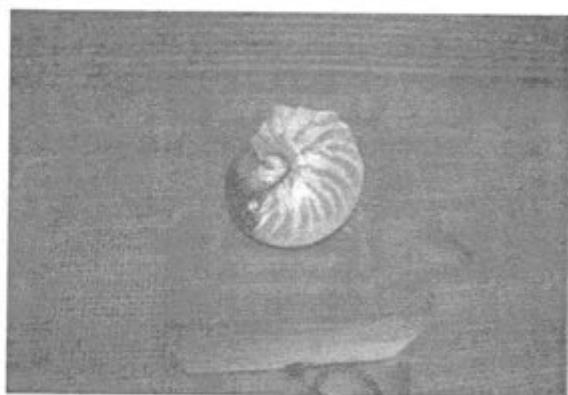


写真2 「ふけつの貝」

七ヶ浜の沖合いにウミガメが現れたのは文化7年（1810）の夏でした。漁師の儀兵衛は仲間と御殿崎の沖で漁をしていたところ、大きなウミガメ（『磯づたひ』では約133メートルあった）が浮き上がりました。老人からカメは酒を好むと聞いていた儀兵衛たちは、カメをつかまえ船に積んでいた酒を飲ませました。カメは酒を1升ばかり飲んだといひます。そして、印（言い



写真1 ウミガメを祀った祠

伝えでは鉈で甲羅に印をつけた)をつけて海に放しました。翌年の夏、漁をしていると再び儀兵衛の船の前にカメが現れました。去年離れたカメかどうかはよく分かりませんが、カメは「漁事には吉事」であるため、またつかまえて酒を飲ませ、海に放しました。すると、さらに翌年の文化9年(1812)夏、再びカメが沖に現れました。今度は背中に貝が吸い付いていました。貝を取ってからカメに酒を飲ませて再び沖に離しましたが、カメは右手が中ほどから食いちぎられていて、とうとう死んで打ちあがってしまいました。そこで、儀兵衛たちは松ヶ浜の養松院の境内にそのカメを埋葬し、塚を作りました。貝は儀兵衛の家に置いていたようです。

1ヶ月ほどして、儀兵衛のところへ、常陸国(茨城県)加波山の行者が旅の途中で立ち寄り、カメが持ってきた珍しい貝の話聞き、それを拝見したいと申し出ました。行者はその貝を見ると、これぞまさしく「ふけずの貝」(『磯づたひ』には「浮穴の貝」)である、といい出し、このカメを祀れば漁師は繁盛すると言いました。「ふけずの貝」とは不老不死の象徴のようです。そこで、儀兵衛たちは、カメを葬った塚の上に瓦屋根の宮を作り、「亀霊神社」と称して大切に祀りました(戦後になってから、カメの祠は鈴木家の敷地へ移されました)。

以上がウミガメを祀った由来ですが、ここからは次のようなことが分かります

①ウミガメの産卵しない宮城県でも、ウミガメが毎年のように現れ、漁師からは特別な存在としてみられている。

②江戸時代の後半には、宮城県でもウミガメが酒を好む、ウミガメが大漁をもたらしてくれる、という認識があった。

③死んだウミガメを埋葬するのは漁師たちの自発的な行為であったが、行者が現れて、「神社」になり、カメが背負ってきた貝も宝物となった。

ウミガメが酒を好むといわれるようになったのはいつごろからかよく分かりませんが、江戸時代の中ごろには船乗りや漁師を通じて全国にこのような考えが広まっていたようです。死んだウミガメを埋葬したのは、七ヶ浜の場合、3年連続(『磯づたひ』では2年連続)カメが現れたこと、3年目には珍しい貝を背負っていたこと、また、右手を食いちぎられていたこと、

などの理由が重なって漁師たちが哀れに思ったのでしょうか。カメが酒を好むという話はどこから伝わってきたものでしょうが、死んだカメを埋葬する習俗は、この場合、儀兵衛たちの自発的な行為のように思われます。そのうえさらに、行者などが現れて、カメや貝のことを神秘的なものとして語りだすとカメは神格化されることとなります。七ヶ浜の場合はあまり背負ってきた貝をカメの恩返しとして語っていませんが、カメが恩返しで貝などを持ってきたという話になっているところもあります。

宮城県を含む東北地方の太平洋岸にはこのほかにもウミガメを埋葬した供養塔などが多数あります。七ヶ浜以外にも江戸時代に建立されたものもあるのです。東北地方は、ウミガメが上陸・産卵しないので、ウミガメは珍しい存在であったということがいえるでしょう。珍しいからこそ、縁起物として大切にされるということにつながったのかもしれませんが。七ヶ浜の場合は、珍しい貝を背負っていたために、一層東北の漁師たちは南の海へ思いをはせることになったのではないのでしょうか。

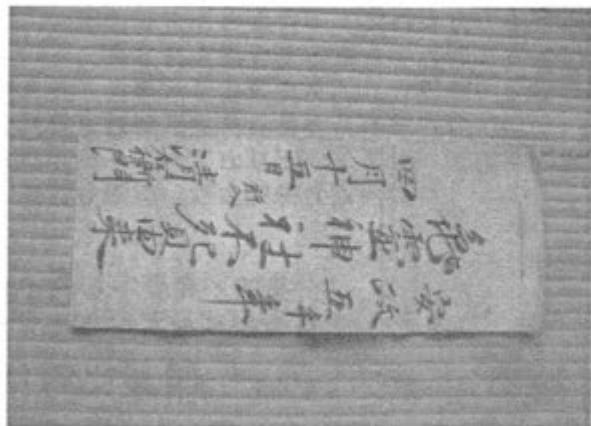


写真3 「亀霊神社」の由来を書いた古文書

# 日本ウミガメ会議（熊野・七里御浜会議）

のご案内



会議開催地 熊野・七里御浜地方  
熊野古道松本峠からの眺望  
(熊野市役所提供)

開催日：2006年11月18日(土) - 20日(月)

開催場所：18日(土) 公開シンポジウム 熊野市民会館

19日(日)、20日(月) 本会議 紀宝町まなびの里

19日(日) 懇親会 鬼ヶ城センター

- 主催 NPO法人 日本ウミガメ協議会
- 主管 熊野・七里御浜会議実行委員会
- 後援 環境省、国土交通省、水産省、三重県、熊野市、紀宝町、御浜町、三重県教育委員会、熊野市教育委員会、紀宝町教育委員会、御浜町教育委員会
- 特別協賛 カネツツデリカフーズ、東洋ゴム工業株式会社、ステラケミファ株式会社、関西電力株式会社、有限会社キュリネール

参加・発表申し込み〆切は9月15日です。

(同封の別紙申込用紙よりお申し込みいただけます。)

参加費：会員 3000円 非会員 5000円 学生 1000円 (締切り後受付 +1000円)

## 開催要項

日本人は古くから様々な形でウミガメと接してきました。産卵を見守る人もいれば、卵を食べる人もいました。死んだウミガメを見ればお墓をつくる人もいました。今、そのウミガメの生息環境が急速に悪化してきています。日本の各地では、それが気になって仕方ない人がたくさんいます。日本ウミガメ会議は、そんな人たちが集まって、ウミガメの現況や保護の方針を考える会議です。毎年ウミガメに縁ある地で行われる、日本ウミガメ会議も、17回目を迎えました。今年は三重県での開催です。少しでもウミガメや海岸のことを考えてくれる方々の参加をお待ちしています。

# 会議日程

18日(土)

- 9:00 新大阪専用バス発車
- 13:30 専用バス熊野到着
- 14:00 熊野古道探勝出発  
大泊パーキング～熊野古道・松本峠～  
花の窟～会場(16:30到着予定)
- 15:00 受付開始 熊野市民会館
- 17:30 開会式
- 17:45 公開講演会  
「熊野の文化とウミガメ」 花尻薫氏  
「三重県のウミガメの現状」 若林郁夫氏  
「特別講演 ブラジルのウミガメとその保護」  
ネカ・マルコバルディ女史
- 20:00 公開講演会終了
- 21:00 会議の予習講座 湯の口温泉  
(学生の宿泊場所も兼ねています。)

20日(月)

- 8:00 会議会場行きシャトルバス発車(各宿泊施設)
- 8:30 受付開始 紀宝町まなびの郷
- 9:30 標識放流調査・漂着死体調査のまとめ
- 10:30 一般講演(6題×2会場)
- 12:00 昼食
- 13:00 一般講演(4題×2会場)
- 14:15 閉会 新宮駅までのシャトルバス発車

19日(日)

- 8:00 会議会場行きシャトルバス発車(各宿泊施設)
- 8:30 受付開始 紀宝町まなびの郷
- 9:30 会議開会
- 9:45 セッション 熊野・紀伊地方のウミガメ
- 11:15 一般講演(4題)
- 12:15 昼食
- 12:45 ポスター発表
- 13:45 一般講演(4題)
- 15:00 今年の産卵状況のまとめ
- 16:00 七里御浜視察 途中 記念写真撮影
- 18:00 懇親会 鬼ヶ島センター
- 21:00 懇親会終了
- 21:30 分科会 熊野市の各店



## 広告掲載のお願い



広告見本  
(第16回日本ウミガメ会議のパンフレット)

第17回日本ウミガメ会議のパンフレット(会議のスケジュールや講演内容が掲載され、1000部が印刷されます)に、皆さんのお店や会社の広告を掲載していただけないでしょうか。名刺サイズ1枠が五千円です。

ウミガメ会議はウミガメのいる田舎での開催にこだわっています。会議では全国のウミガメ情報を持ち寄り議論するのですが、田舎から田舎に移動するには交通費が負担になります。浄財は主に遠隔地からの参加者の交通費として使わせていただきますので、よろしくお願いたします。

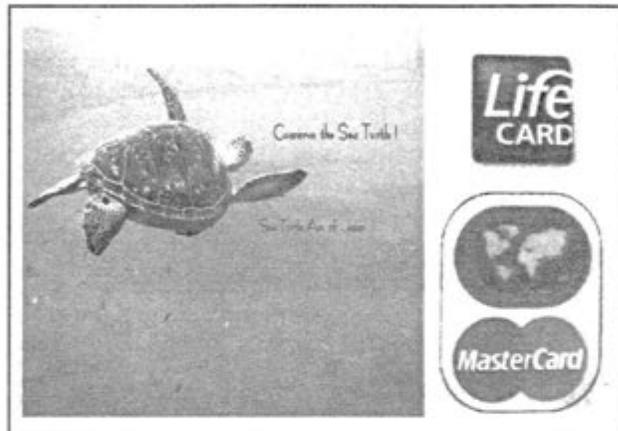
お問合せは  
事務局の仲村(または中本)まで。

# News!!



## ライフカードでウミガメ保護

日本ウミガメ協議会オリジナルデザインの  
クレジットカードが出来ました。



(写真はイメージです)

俳優オダギリジョー氏の「どうする!？」のCMでお馴染みのライフカードに、日本ウミガメ協議会オリジナルデザインが出来ました。  
このカードは、国内・海外のライフカード及びマスターカード加入店で、ご利用いただけます。

どうする?



このカードでお買い物していただいた売上金の一部は、ウミガメの調査・研究・保護活動の為に当会に寄付されます。

申し込みの入会金・年会費等は一切かかりませんので、ウミガメの為に是非、お申し込み下さい。

申し込み・お問い合わせは・・・  
日本ウミガメ協議会大阪事務局  
Tel:072-864-0335  
Mail:info@umigame.org

## ■ □ ■ 会議Tシャツ&手拭いデザイン大募集

第15回ウミガメ会議記念Tシャツ



(表)

(裏)

オリジナル日本手拭い



当会では、ウミガメ会議の際に、毎年記念Tシャツを制作・販売しています。

今年も例年通りTシャツの制作を考えていますが、今回はデザインを皆様より、広く募集したいと思いますので皆様のご協力をお願いいたします。〆切は9月末日までです。

また、Tシャツとは別に手拭いのデザインも随時募集いたします。素敵なデザインは当会より商品化させていただきます。

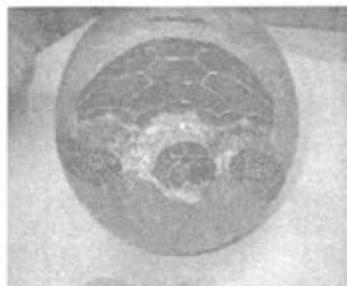
どちらもメールか郵送でお送り下さい。  
(サイズは問いませんが色は単色になります。)  
ご応募お待ちしております。

## ■ □ ■ 募金箱設置のお願い

右の写真は、海岸に漂着する〈浮き〉に穴を開け、ウミガメの絵を描き、募金箱へ再利用したものです。

事務局では、写真のような募金箱を置いてくださるお店を募集しています。ウミガメのためにこの募金箱を置いてくださる心優しい方がいらっしゃいましたら、事務局までご連絡下さい。

この募金で集まった浄財は、ウミガメの研究や保護のために使われます。どうぞよろしくお願いいたします。



漂着する浮きを再利用した募金箱

## ■ □ ■ グッズ販売店募集

事務局では、当会で取り扱っているグッズを販売して下さるお店を募集しています。ウミガメグッズを皆さんのお店に置いていただけませんか？  
グッズの売り上げは、ウミガメの調査・研究・保護のために使われます。  
お問い合わせは日本ウミガメ協議会事務局・仲村まで。

# グッズ紹介



■ Sea Turtle Supporters Shopより新取り扱い商品のご案内

-人気のオリジナル手拭いに新デザインが出来ました。



オリジナル手拭い (子ガメ) 525円 (1枚)

-子どもさんの勉強のお供に。



(表)

「日本のうみがめ」下敷 500円 (1枚)  
※オリジナルウミガメステッカー1枚つき



(裏)



「日本のうみがめ」別77枚 500円 (1枚)  
※オリジナルウミガメステッカー1枚つき

-お部屋のインテリアに。



「Sea Turtle Box Vol.1」 2,000円 (1セット)  
(オサガメ、アオウミガメ、タイマイ、ケンビメウミガメ)  
※オリジナルウミガメステッカー1枚つき



「Sea Turtle Box Vol.2」 2,000円 (1セット)  
(アカウミガメ、クロウミガメ、ヒラタウミガメ、ヒメウミガメ)  
※オリジナルウミガメステッカー1枚つき

\*送料は別料金です。

\*価格は消費税が含まれた総額表示となっております。

\*売上金の一部は、ウミガメの研究と保護のために使われます。

## ご寄付を頂いた方々

石川裕子、山田輝一、佐藤弘子、塚田津恵子、松下陽子、  
前田直美、有限会社ネイティブビジョン、輝本善造、大地昭、  
蔭山純由、柴山信行、ステラケミファ株式会社、黒島久子、  
赤木径子、徳永章二、田中正規、島啓介、米田耕作、星野命、  
野村直人、秀野真理、加藤千枝、鎌田篤、犬塚誠、坂野勝也、  
日高安義、井澤信三、杉山あや子、太田英利、端田宏子、  
通事健次、坂本亘、波多野真樹、宗像美穂、清水智仁

(順不同・敬称略) 2006年3月15日～2006年7月31日まで

## 事務局の主な動き

(2006年3月～2006年7月末まで)

- 3月24日 JBA会議出席
- 3月26日 漁師のNPO第1回シンポジウムに参加
- 3月30日 ハンさん帰国
- 3月31-4月9日 国際ウミガメシンポジウムに参加
- 4月22日 アースウォッチ・ジャパン アースデイ東京にて  
「奄美諸島のウミガメの保全」の講演
- 5月7-8日 熊野・七里御浜会議実行委員会に出席
- 5月14日 須磨海岸 「海浜植物観察会」参加
- 5月17・31日 神戸動植物環境専門学校にて講義
- 5月27-28日 徳島 平成18年身近な自然一斉調査  
第一回講座「アカウミガメ上陸・産卵講習会」に参加
- 6月4-5日 天草にて調査
- 6月9-10日 串本海中公園にて、アカウミガメに衛星発信機装着
- 6月10日 ヘリーハンセン主催 ビーチクリーンイベントへ参加
- 6月9-12日 種子島にて調査
- 6月19日 協議会ゼミ開催
- 6月20日 愛知県へオサガメ漂着死体調査
- 6月23日 徳島県立水産高校にて講演
- 6月24日 成ヶ島へオサガメ漂着死体調査
- 6月30日 兵庫県へオサガメ漂着死体調査
- 7月12日 成ヶ島へ産卵調査
- 7月15-17日 カメハメハ王国と共催し「相良自然環境塾」を開催
- 7月15・17日 IUCN親善大使 イルカさんコンサートにて活動紹介ブースを出展
- 7月20日 熊野・七里御浜会議実行委員会に出席
- 7月22-23日 漁師のNPO理事会に出席
- 7月22-23日 第1回蒲生田うみがめスクールに参加
- 7月29日 瀬戸環連
- 7月29-30日 表浜ネットワーク「おいでん祭」にて講演

## STSmembers募集中

STS(SeaTurtleSupport)membersは、ウミガメと共に生きていける自然、環境について考え、その研究・保護活動に協力する人々の集まりです。

日本ウミガメ協議会では、当会をサポートして下さるSTSmembersを随時募集しております。皆様のお知り合いで、自然が好きな方、海が大好きな方、ウミガメに興味をお持ちの方がおられましたら、是非、入会をお誘い下さい。

### 携帯電話用ウミガメステッカーの配布

当会では、少しでも多くのウミガメの情報を得るために、当会の連絡先がプリントされた携帯電話用ウミガメステッカーを配布しています。

もし、海岸や海でウミガメの産卵や死体を見つけた時は、これを見て協議会にお電話下さい。

ステッカーを貼って下さる方、お友達に配っていただける方は、必要枚数をご記入の上、80円切手を貼った返信用封筒をお送り下さい。

皆様のご協力をお願いします。



携帯用ステッカー

## 編集後記

編集担当: 仲村 貴生

はじめまして。今回マリンタートルの編集・デザインを担当させていただきました仲村です。暑い夏も終わり、朝夕は涼しい風が吹き、半袖では少し肌寒くなって来ましたが、いかがお過ごしでしょうか。さて、今回のタートルはやけに早い発行となります。というのも、会長から、「いつもウミガメ会議前に(タートルを)出すと言っているが、会議前どころか年内にもでないじゃないか。」というおしかりを受け、(遅れる理由は、タートル列伝や、ウミガメ基礎講座に書いてあると思いますが。)今回は会議前の発行と成ったわけです。

そのウミガメ会議まで2ヶ月をきろうとしております。中にも書いていますが、今年のウミガメ会議は三重県七里御浜での開催です。会場の下見にも行ってきましたが、とても良いところですよ。事務局一同、皆様のご参加を心よりお待ちしておりますので、是非ふるってご参加下さい。

マリンタートルに関するご意見・ご感想もお待ちしております。

### マリンタートル (日本ウミガメ協議会機関誌)

発行日 2006年9月10日  
発行 日本ウミガメ協議会

573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302  
電話:072-864-0335 FAX:072-864-0535  
URL:<http://www.umigame.org> E-mail:<http://umigame.org>